

口頭発表 第2日

2月7日(金) 10:00 ~ 11:15

口頭発表の記録について

<口頭発表の録音について>

自己学習に使用する場合であっても、録音できません。自校の記録等として参加者が録音を希望する場合は、発表開始前に司会に申し出てください。

<口頭発表の撮影について>

自己学習に使用する場合であっても、撮影できません。自校の記録等として参加者が写真及びビデオの撮影を希望する場合は、発表開始前に司会に申し出てください。

口頭発表

2月7日(金) 10:00~11:15 A会場 3階 中研修室(1)

<提案のポイント>

③ 10:00~10:30

小学校 教科等指導 授業改善
[文部科学省委託「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善充実事業]

深い学びの実現に向けた指導の工夫と充実
～学びのつながりで育む自己有用感と資質・能力～

大仙市立大曲小学校 教諭 田村佳久美

昨年度から取り組んできた「知識や技能を活用したり知識等を相互に関連付けたりして深い理解につなげる学習活動」の成果を継承した2年目の取組である。今年度は「見方・考え方」を焦点化し、「単元や授業の中で児童に働かせたい『見方・考え方』」「単元で付けたい力を身に付けた児童の姿」を明確にして授業実践を進めてきた。その取組の実際、成果と課題、今後の取組について紹介する。

④ 10:45~11:15

中学校 教科等指導 授業改善
[文部科学省委託「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善充実事業]

思考の活性化から深い学びへ(2年目)
～「文部科学省委託『主体的・対話的で深い学び』の実現に向けた授業改善充実事業」での実践を通して～

大仙市立大曲中学校 教諭 中山憲太郎

今回の事業に対する取組の成果として、本校では「カリキュラム・マネジメントの視点を基にした、三つの資質・能力の観点での『目指す生徒の姿』設定」「授業改善サイクルの確立」を挙げている。その実践の具体について発表する。

□頭発表

2月7日（金）10:00～11:15 B会場 1階 中研修室

<提案のポイント>

今年度、本校は「いのちの教育あったかエリア事業」の指定を受け、町教育委員会が主体となって「生命の尊さ」「思いやり」の心を育む道徳教育に取り組んだ。町教育委員会では、井川町出身の大学教授を招聘したり、希望する児童生徒を対象とした三陸海岸での震災学習などを実施したりした。また、学校では講演会や講話会の実施、道徳の授業改善、特別活動の実践など学校の教育活動全体を通じて道徳教育の充実に向けて取り組んだ。

③ 10:00～10:30

小・中学校 道徳
[文部科学省委託 いのちの教育あったかエリア事業]

「生命の尊さ・思いやり」の心を育む道徳教育
～自他のよさや変容に気付く道徳科や特別活動の実践を通して～

井川町立井川義務教育学校 教頭 小玉 克男
教諭 半田 昌幸
教諭 石川 優子

④ 10:45～11:15

中学校 道徳
[日教弘秋田支部募集教育研究論文(入賞論文)]

道徳的価値の理解をもとに、人間としての生き方について考えを深める道徳科授業
～「比較する対話」を中心に据えてねらいに迫る～

秋田市立将軍野中学校 教諭 伊藤 香

「本当に大切なこと」は、教師の言葉のみで獲得されていくものではない。そこでは体験や対話を通じた学びが重要な意味をもつ。道徳科の授業においては、対話が生命線となる。本研究は、授業づくりの柱として二つの「比較する対話」を位置付けたものである。誰もが取り組めるような対話の枠組みを提案したい。小学校教材による中学校での授業実践も紹介する。対話による道徳科授業の面白さを多くの方々と共有できればと思う。

□頭発表

2月7日（金）10:00～11:15 C会場 1階 美術研修室

<提案のポイント>

学校・地域・家庭の連携をより強化するための学校運営協議会の組織作りや運営の仕方について、先進的な取組を行っている教育委員会や小・中学校に聞き取り調査を実施し、小中連携や地域・家庭との連携のための具体的方策を探ってきた。それらの方策を基に、所属校の実態に応じた学校運営協議会の組織作りや運営の仕方を工夫することで、三者の連携がより強化され、協働して子どもの成長に携わっていくことができると思う。

③ 10:00～10:30

小学校 学校運営
[秋田大学教職大学院研修]

コミュニティ・スクール導入による学校・地域・家庭の連携方策
～学校運営協議会の機能強化を目指して～

秋田市立下新城小学校 教頭 猿田 尚

④ 10:45～11:15

中学校 ふるさと教育・キャリア教育
[秋田大学教職大学院研修]

地域に根ざしたキャリア教育を推進していくための方策

鹿角市立尾去沢中学校 教頭 駒ヶ嶺 充

前任校である花輪第一中学校は昭和32年から合唱づくりに取り組んでいる。その合唱づくりを軸にして基礎的・汎用的能力を育てていくための方策を、組織マネジメントの視点から紹介する。また、現任校である尾去沢中学校では、ふるさと・キャリア教育として「史跡尾去沢鉾山ガイド」に取り組んでいる。今年度の実践を通して見られた成果と課題から、今後、組織としてどのようにふるさと・キャリア教育に取り組んでいけばいいのか考察していく。

□頭発表

2月7日(金) 10:00~11:15 D会場 3階 中研修室(2)

<提案のポイント>

③ 10:00~10:30

特別支援学校 特別支援教育 授業改善
[文部科学省委託 特別支援教育に関する実践研究充実事業]

特別支援学校における自立活動の指導の改善・充実を目指して
～「授業改善プロジェクト」の取組から～

秋田県教育庁特別支援教育課

指導主事 中村 素子

秋田県では、特別支援学校教員の実践的授業力の向上に向け、「授業改善プロジェクト」に取り組んでいる。昨年度からの2年間で、教育課程上、重要な位置を占める自立活動を取り上げ、自立活動の基礎・基本に基づく実践の充実を目的とした研修会や授業研究会等を実施した。個別の指導計画の作成に係る演習や提示授業から整理した、自立活動の改善の要点として、実態把握の視点や中心的な課題の導き出し方、学習活動や手立ての工夫等を提案する。

④ 10:45~11:15

特別支援学校 特別支援教育 教育課程

中学部居住地校交流の実施に向けた提案
～「つながりが続く・関わりが生まれる交流活動」を目指して～

県立支援学校天王みどり学園 教諭 加賀美砂子

県立支援学校天王みどり学園では、中学部の居住地校交流に取り組み始めて2年目を迎えた。小学部での居住地校交流は、本校を含め多くの実践が行われているが、中学部での居住地校交流は全国的にもまだ少数である。中学校・特別支援学校双方の生徒にメリットのある交流を目指した、具体的な交流までの流れや実践例、現段階の成果と課題を報告する。

□頭発表

2月7日(金) 10:00~11:15 E会場 2階 授業研修室

<提案のポイント>

③ 10:00~10:30

中学校 ふるさと教育・キャリア教育

自校の課題を踏まえたふるさと・キャリア教育の推進
～職業的自立に向けた資質・能力の育成～

小坂町立小坂中学校 教諭 酒井 文典
教諭 飛嶋 秀輔

地域について学び、発信するふるさと・キャリア教育に9年間を通じて取り組み、町づくりに参画している点が評価され、昨年度文部科学大臣奨励賞を受賞した。しかし、学校評価アンケートからは「職業への移行の準備」の面が弱いという新たな課題が見えてきた。情報発信、貢献型のふるさと教育を推進しつつ、将来のふるさとの担い手を育てる視点で、勤労観・職業観を育む「職業教育」を併せて推進していく目的で行った坂中Kーキャリアの取組について報告する。

④ 10:45~11:15

高等学校 ふるさと教育・キャリア教育

Microsoft Access® による生徒ポートフォリオデータベースの構築

県立新屋高等学校 教諭 柏谷周一郎

令和3年度大学入試から、調査書の様式が変更されることに伴い、生徒の活動等をデータとして蓄積するシステムを、データベースソフトを活用して構築した。生徒の保健や生徒指導に関わる情報も合わせて蓄積でき、年度が替わって担任が替わっても、生徒のポートフォリオが蓄積される仕組みを目指した。

□頭発表

2月7日(金) 10:00~11:15 F会場 1階 大研修室

<提案のポイント>

③ 10:00~10:30

幼・保・認定こども園等 就学前教育

子ども一人一人に眼を凝らし学びや成長を読みとる

大館市立東館保育園 主任保育士 佐藤久美子
保育士 能村 藍子

保育所保育指針の改定から、「育みたい資質・能力」と「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」を視点に、一人一人の学びや育ちを読みとる研究に取り組んでいる。子どもの姿から捉える保育士の読みとりを園で語り合い、読みとった学びや育ちの姿を保護者へ発信することで、保護者の子育て支援につながっていた。保育士一人一人が学びを深める努力をすることが、園保育の充実につながるように子どもの姿と共に学び続けていきたい。

④ 10:45~11:15

幼・保・認定こども園等 就学前教育

園内研修の充実のための研修リーダーの役割
~学び合う園内研修の体制づくり~

男鹿市立船越保育園 リーダー保育士 大野 純子
リーダー保育士 泉 清江

若手・中堅・ベテランを問わず、どの保育者も主体的に研修に参加できるように『目指すべき園内研修の姿』を設定し研修を進めてきた。その中で浮かび上がった「学び合う研修の体制づくり」「研究テーマや内容の共通理解」「意見の出しやすい雰囲気づくり」の課題解決に向けての手立てを職員に提案し、工夫や計画・実践・評価・改善を行ってきた。生き生きと研修に参加する職員を目指し、これまでの研修リーダーとしての役割や取組について述べる。

□頭発表

2月7日(金) 10:00~11:15 G会場 1階 小研修室

<提案のポイント>

③ 10:00~10:30

小学校 学校運営
[秋田大学教職大学院研修]

学習・生徒指導メンターチームを基盤とするウェブ型マネジメントの開発
~大量退職・大量採用期における実践知の継承と発展を目指して~

横手市立横手北小学校 教頭 小松 英昭

先輩教員の実践知の継承と発展を可能にする学校運営が、今、必要とされている。そこで、若手・中堅・ベテランの各世代を構成員とし、中堅層を中核として位置付けたメンターチームを設け、明瞭な中心をもつウェブ型を生かしたマネジメントを行うことを提案する。これにより組織の目的につながる柔軟なコミュニケーションや個々が抱くビジョンと結び付いた共有ビジョンの形成がなされ、職員会議等でも実践知の継承や発展が可能になる。

④ 10:45~11:15

高等学校 英語
[国際教養大学大学院研修]

Enhancing SHS students' oral production through using interactional tasks

県立西仙北高等学校 教諭 熊谷 多恵

2022年から年次進行で実施される新学習指導要領においては、生徒の発信能力の育成を更に強化することが求められている。スピーキングにおいては「やり取り」と「発表」の2領域に分類され、「伝え合う」という双方向のコミュニケーションも重視されている。本研究では Information gap などの生徒にコミュニケーションの必要性を感じさせる活動を取り入れ、生徒の発話を促すことを目指した授業実践を報告する。

□頭発表

2月7日(金) 10:00~11:15 H会場 2階 中研修室

<提案のポイント>

③ 10:00~10:30

小学校 外国語活動・外国語
[拠点校・協力校英語授業改善事業]

**確かな力が育つ学びの創造
～学びをつなげ、学びを活かす姿を求めて～**

由利本荘市立新山小学校 教諭 佐々木洋司
教諭 京野 真広

外国語活動担当教員の指導力及び英語力の向上、子どものコミュニケーション能力の育成に、本校研究とつなげながら全校体制で取り組んだ。子どもの学びをつなげて活かすことができる教科等横断的な視点からの単元構想、オールイングリッシュによる授業を目指した学習活動の工夫、学びの成果が実感できる時間や内容のまとまりでの振り返りなどである。HRTの英語発話量の増加や子どものコミュニケーションへの意欲の高まりが見られた。

④ 10:45~11:15

中学校 英語
[拠点校・協力校英語授業改善事業]

**主体的に、英語で自分の気持ちや考えを表現
できる生徒の育成を目指して
～生徒の学びをつなげ、深める学習活動を通して～**

由利本荘市立本荘北中学校 教諭 山崎 育

即興で自分の気持ちや考えを表現できる生徒の育成を目指して、言語活動の工夫・改善に取り組んだ。CAN-DOリストを活用しながら、これまでの単元計画の在り方を見直し、単元ゴールに向けて必要な言語活動を積み重ねていくことで、生徒の「話すこと」に対する意欲の高まりが見られるようになった。また、やり取りの活動を継続する中で、受容的な態度も育ち、互いのよさや違いを認め合いながら、既習事項を用いて即興で話そうとする姿が見られるようになった。

□頭発表

2月7日(金) 10:00~11:15 I会場 2階 音楽研修室

<提案のポイント>

③ 10:00~10:30

特別支援学校 特別支援教育 学校運営
[秋田大学教職大学院研修]

**特別支援学校における地域に開かれた学校づくり
～地域資源活用の充実に向けた組織的取組に関する検討～**

県立支援学校天王みどり学園 教頭 田中 紀和

児童生徒は地域資源を活用した学習活動で人の役に立ったり、人に感謝されたり、認められたりすることで「自己有用感」が高まる。教員は自身の教育実践へ手応えを感じる一方、地域の方は児童生徒の役に立っているという実感を持ち、児童生徒を深く理解することができる。学習内容の精選に向けては、児童生徒の成長のために地域資源を活用した教育活動を一層発展充実させていく、という考えを全校職員で共有する方策が必要である。

④ 10:45~11:15

高等学校 博士号教員
[高度理系教員育成プログラム講演]

**総合的な探究の時間と理数系探究活動、科学部活動の充実に向けた博士号教員の活用について
～探究活動を通して学びの感動を生徒に！～**

県立大曲農業高等学校 教諭 大沼 克彦
県立秋田高等学校 教諭 遠藤 金吾

高等学校新学習指導要領の中では、生徒が主体的に取り組む探究的な学習が求められており、特に先行実施されている「総合的な探究の時間」や理数系の探究活動、科学部系の部活動など、生徒の探究活動の指導の方針や具体的な指導法については各学校、教員で課題を抱えている現状がある。我々博士号教員は、生徒の探究活動に対する支援事業を展開しており、その内容及び成果としての教育効果について発表することで、探究活動の意義とより一層の推進を提案したい。